

想定外の災害認識を

正しく恐れ備えが必要

第5期第11、12回詳報

311
次世代塾
伝える／備える

東日本大震災の伝承と防

災の担い手育成を目的に河

北新報社などが開く通年講

座「311『伝える／備え

る』次世代塾」第5期は11

日、第11、12回講座を開い

た。宮城県南三陸町の震災

復興祈念公園を大学生約30

人が訪れ、町職員ら43人が

犠牲になった旧防災対策庁

舎、町を襲った巨大津波を

伝えるモニUMENTなどを

を示す風景を紹介。16・5

分の津波高で丘を1周する

「高さのみち」では「海が

せり上がって町全域に押し

寄せた。津波の高さと自然

の猛威を感じ取ってほし

い」と呼び掛けた。

町の死者・不明者は833

0人を超える。遠藤さんは

ハザードマップの浸水想定

区域外で多くの犠牲者が出

たことを説明し、「『ここ

住宅は高台に設けるなど

「職住分離」を進めた。「生

活の利便性は低下した。津

波への安全確保を優先した

ゆえの難しさをどう解決す

るかが今後の行政課題だ」

と分析した。

復興のみちづくりは山を

削って住宅や公共施設用地

を造成したため、土砂災害

など津波と違う災害が懸念

される。遠藤さんは「新た



旧防災対策庁舎前で被災直後の様子を振り返る遠藤さん
＝南三陸町

なりリスクに危機意識を持つて備える必要がある。皆さんも自宅周辺の災害リスクを認識し、命を守る避難行動を考えてほしい」と訴えた。

受講生からは、防災対策庁舎で孤立した職員の行動や、行政機能の復旧などについて質問が出た。遠藤さんは庁舎屋上で同僚と共に津波にのまれた体験を語り、「災害で同僚も生活も一瞬で全てを失う現実があ

受講生の声

津波の高さ衝撃

公園の丘から旧防災対策庁舎を見下ろし、津波の高さに衝撃を受けました。ハザードマップを想定の一つとして活用し、油断せず命を守る行動を考えることが大事。教員志望なので、子どもに命を守る大切さを伝えられるよう学びをさらに深めたい。(福島市・宮城学院女子大3年・佐藤由希菜さん・20歳)



命守る意識持つ

今まで訪れた被災地で最も海が近く、骨組みだけが残った旧防災対策庁舎を見て、この地域を襲った津波の威力について考えさせられました。「一瞬にして全てを失う現実がある」という言葉が印象に残っています。普段から命を守る意識を持ちたい。(仙台市青葉区・東北大3年・小松土恩さん・21歳)



推進協議会の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉大、仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工大、宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、尚絅学院大、仙台大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構。